

伊福よしはる

宝塚改革プロジェクトNEWS Vol. 3

宝塚を変える
改革ネット<http://ifuku-yoshiharu.net>宝塚生まれ、宝塚育ち
昭和48年生まれ
光明小学校、高司中学校
宝塚西高校、同志社大学
同志社大学院、(株)クボタ
宝塚青年会議所発行: 伊福よしはる
住所: 宝塚市福井町19-12
TEL/FAX: 0797-72-3626

ごあいさつ



新年あけましておめでとうございます。

公職選挙法により年賀状などのあいさつ状を出すことが禁止されていますので、この市政レポートをもってかえさせていただきます。

さて、昨年の4月の選挙では、みなさまのご支援により無事当選することができました。ありがとうございました。あれから「あっ」という間に8ヶ月がたちました。その間に6月、9月、決算委員会、12月議会がありました。私が当初から終始一貫して主張していくことは、「行政を運営する」という考え方です。

どうしても行政は、ムダが多すぎます。また、仕事をして、しなくても同じ公務員という考え方では、到底行政を運営することはできません。

地方分権時代、地方のことは地方でやらなければなりません。十人十色という言葉があるように、宝塚市の特徴を活かしたまちづくりを今後おこなっていかねばなりません。

耳ざわりの良い言葉だけでなく、しっかりと行政を監視し、明るい豊かなまちづくりができるよう政策立案をおこなっていきます。

今年もご支援よろしくお願ひ申し上げます。



よく聞く「三位一体」改革とは？

三位一体改革とは、

1. 国庫補助負担金を削減し、
2. 地方へ税源をうつす（税源移譲）
3. 地方交付税の見直し（縮小）

という3点セットのことを言います。

ここで、

・国庫補助負担金とは、使い道が決められている国からの税金（補助金）です。

・地方交付税とは、自由に使うことができる国から交付される税金です。

簡単にいえば、国からもらえるひも付きの税金を少なくし、直接地方へ税源を移すということです。

それでは、なぜ、三位一体改革が必要なのでしょう？

■ 1つは、ムダな公共事業をなくすため。

自治体は、公共事業については国の国庫補助負担金がついていれば、それが必ずしも住民の目から見て必要性、緊急性がなくても事業化していきます。

それは、国のお金で事業ができるからです。

住民は、国庫補助金と地方債を中心に実施される公共事業は、市の税金から直接負担しないためタダだと財政錯覚し、ほとんど無関心になっています。しかし、国からの補助金も元は住民の血税なのです。

だから、これらの国庫補助負担金を廃止して、地方税（地方が自由に使える税金）に税源を移譲することになれば、住民は地方税の増税分と地方債（地方の借金）で事業が実施されるようになります。

地方単独の事業になれば、その事業の適否を直接住民の判断に委ねることも可能になります。そうすれば、ムダな公共事業のために血税を出してまで賛成する住民はいなくなるでしょう。

今まで公共事業が必要かどうか？の判断は、中央・地方官僚によって決められていました。

公共事業の国庫補助負担金の廃止によって、公共事業決定を官僚・族議員・土建業界から取り戻し、税金を負担する住民の直接決定に委ねていくことが三位一体改革の大きな目的なのです。（次号につづく）

平成19年12月 定例市議会 伊福よしはるの一般質問及び答弁の概要

宝塚市の公園で事故が！

<伊福よしはる>

6月、9月議会でも質問を行った「公園及び学校の遊具の安全性について」について。全国的に公園の事故が絶えない中で、宝塚市でも事故が発生しました。10月7日午後五時ごろ、清荒神の駅前の公園で、小学校一年生の男児がブランコで遊んでいたところ、突然、ブランコをつっている鉄製の鎖が切れました。幸い、男児にケガはありませんでしたが、一步間違えると大ケガにつながっていたかもしれません。ブランコ事故が起こった原因は？

<市長>

事故の約10日前に安全点検を行ったが異常はなかった。切断された断面形状から繰り返し行われた強いねじれによって起きたと思われる。

<伊福よしはる>

子供が鎖をねじったぐらいで切れるでしょうか？私は主な原因は、金属疲労によるものだと思います。切断した部分にねじれたときの負荷がかかり一番弱い部分の鎖が切れたのではないですか？

このブランコの鎖はいつ交換したのか？修繕記録は残っていますか？

<坂井 副市長>

昭和54年に開発業者から提供を受けた公園で、事故したブランコについては、いつ取り替えたか記録はありません。

<伊福よしはる>

記録がないのが、大問題なんです。食べ物だと賞味期限があるように、ブランコにも耐用年数があるはず。

<秋山 建設部長>

ブランコの場合、使用頻度が高いもので25年と聞いております。ただ、事故の10日前にも職員が直接負荷をかけて点検を行い安全だという確認をしております。



鎖が変えられた小林公園のブランコ

<伊福よしはる>

だから、金属疲労が原因だと通常の点検では、異常を確認できない。金属疲労を発見するために、1つ1つ探知機で検査はできない。つまり耐用年数を決めて、超えれば交換していく体制が必要。そのためには、ちゃんと修繕記録を残していかなければならない。

<市長>

現在、公園管理マニュアルを作成し、管理している。今後、点検記録と修繕記録も保存し、管理に活用していくよう努める。

<伊福よしはる>

遊具に関して、公園も学校も同じである。学校についても公園と同様に管理していかなければならない。

今回の公園の事故について、学校の遊具に関して対策が必要。公園と学校の連携は取れていますか？

<徳田 教育委員会管理部長>

その辺の連携は十分ではありません。今後取り組んでいきたいと考えております。

<伊福よしはる>

遊ぶ子供たちにとっては、公園でも学校でも同じ遊具である。公園の事故が学校で、また学校の事故が公園で再発しないようにしっかりと両部門が連携し、子供たちの安全を守っていくこと。

行政を経営するためには？

<伊福よしはる>

行政を経営するとは、各事業を継続して運営していかなければなりません。しかし、現在の単年度収支、現金主義の公会計制度では、到底行政を経営することはできません。

企業会計には、財務会計と管理会計の2種類があります。民間企業は、管理会計（経営会計）という手法で企業経営を行っています。いわば、財務会計は問題を開示する会計であるのに対して、管理会計は問題を解決する会計であるといえます。行政を経営するという観点から、管理会計の手法が必要だと思いますが、どうお考えか？

<市長>

企業で行われている管理会計の目的は、経営者が利益追求を目的とし、経営に関して意志決定するために必要な内部情報を提供することにあると言われていています。これに対し、地方公共団体は利益を追求しません。そのため、企業体とは違う手段で行政を経営する必要があると考えています。

<伊福よしはる>

管理会計を勘違いしている。企業が管理会計というと利益追求につながるが、管理会計の手法は行政も見習う点が多々ある。例えば、ABC：活動基準原価計算（activity based costing）。

これは、職員の作業を細かく分けて、どんな作業にコストがかかっているかを分析する手法です。これを使うと、図書館で本を読むと277円かかるだとか、図書館の本の返却が遅れたときの督促には1件で1,844円かかる、ということが分かる。

また、業務時間調査という手法もある。これは適正な人員配置を行うために業務ごとの時間を分析し、業務とその成果を関連させて必要な人員数を割り出す場合に用いられる。今、公務員の給与が高い、人数が多いなど批判を受けているが、この分析を行うことによって、適正な人員を把握することができる。

今後、行政を経営していくためには、管理会計の手法が必要である。必ず導入していくことを強く要望する。

次に、事務事業評価の見直しについて。

（右上に続く）



赤字を解消するために事務事業を見直す(神戸市、芦屋市)

事務事業とは、市の施策方針を実現させるために行う事務や事業のことです。これを改善し、行財政改革を進めている都市があります。近隣で言えば、芦屋市。平成16年から平成25年の10年間で219億の赤字を見込んでいましたが、平成24年度には黒字に転化する見込みです。これは事務事業の見直しが大きいと思われます。

芦屋市、神戸市とも毎年事業を見直して改善していくというサイクルができあがっています。事務事業に関して、今宝塚市に必要なのは、

1. 何が問題なのかを明らかにする。
2. その問題を構造的に分解して整理することです。

芦屋市、神戸市は、問題点を分析して、行政のムダをどんどん削除しています。



本会議で使用したパネル(神戸市の改善方法)

<井上 企画財務部長>

事務事業を評価するときには庁内で情報が共有されているか？という問題がある。また自己評価ではなく、外部評価を導入することにより、事務事業の評価も違ってくるはず。市民への説明責任も十分果たせているとは言えない。今後、十分検討していきたい。

<伊福よしはる>

事務事業を改善することによって、抜本的な赤字解消につながる。是非改善を！

丸わかり！議会ニュース

～ 議会では、こんな内容を議論しています ～

宝塚市立病院 冬のボーナスが払えない…



経営不振 宝塚市立病院

宝塚市立病院といえば、突如、産婦人科が閉鎖されるという記事で新聞をにぎわせました。それに平成18年度決算は、約10億円の赤字経営です。今はどこの市立病院も経営が苦しいのが現状ですが、宝塚市もその1つです。

今回の議案も、職員の冬のボーナスを払うお金が無いから、短期で2億円借り入れをしなければならないというもの。経営が大変なのは分かるが、議員からの質問に対して、その答えがどうも曖昧…。本当に経営する気があるのかどうか？疑問が残ります。

他の議員からは、約25億円の累積赤字を黒字化した香川県坂出市の坂出市立病院を例に出して討議していました。この病院は、自治省から「病院廃止勧告」を受け、完全に見放された状態でした。そこに、塩谷先生が院長として赴任し、「変わらなきや」をキャッチフレーズに掲げ、全職員が心を一つにしてコツコツと努力を積み重ねた結果、不良債権を解消したのです。ポイントは、やはり「人」。人財である。トップで組織は変わる！

プラスチックゴミ問題は続くよどこまでも！

宝塚市は、環境負荷を低減するために、プラスチックゴミを固形燃料化しています。その手法をRPFといいます。「RPF」とは Refuse Paper & Plastic Fuel の略称であり、主に産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙及びプラスチックを原料とした高カロリーの固形燃料です。イメージとして、石炭の代わりだと考えて下さい。

現在、これを処理している会社があるのですが、当初RPFとして、ゴミを処理する施設がなかったのに、入札に参加している点がどうもおかしいのです。実績を重視する行政が何の経験もない業者に発注するのでしょうか？

また、RPFという固形燃料にも、問題があるのではないか！という指摘もあります。RPFを製作するとき、木くずや紙くずなどを混合させて作るのですが、現在処理している会社は、セルロースという、たばこのフィルターの原因となる物質を混合しています。それ自体は悪くないのですが、原料となるプラスチックなどに食べ物のかすなどが付着しているため、塩素分が多いという指摘もあります。これを燃やすと塩素が発生したり、炉の痛みが早くなったりします。こんな問題点があるのに、莫大な税金をつぎ込んで、本当に固形燃料化ができるのか？今回、プラスチックゴミの処理費用を追加する補正予算ができましたが、否決すれば契約違反で処理業者から損害賠償請求がきますので、付帯決議つきでとりあえず可決しました。今後もプラスチックゴミ処理問題は紛糾しそうです。



何かと問題が多いクリーンセンター

●伊福よしはるサポーターを募集しています。

伊福よしはるの活動は、ボランティアのみなさんによって支えられています。特にお願いしたいのは、この市政報告のチラシを配って頂ける方です。またお店や企業に市政報告を置かせて頂ける方もお待ちしております。例え10部でも構いません。皆様のお力を少しでもお貸し下さい。ご連絡お待ちしております。(TEL/FAX: 0797-72-3626伊福まで)

●3月の定例市議会のお知らせ

- 2/29～3/3 (代表質問)
- 3/4～7 (常任委員会)
- 3/14～17 (予算特別委員会)
- 3/25～26 (本会議)

